

Strix 12 : 115-119 (1993)

## アメリカコハクチョウとコハクチョウのつがい および家族群の連続越冬記録 — 第IV報 —

村瀬美江<sup>1</sup>

愛称「クロチャン」と呼ばれるアメリカコハクチョウ *Cygnus columbianus columbianus* (以下アメコ) と愛称「カアサン」と呼ばれるコハクチョウ *C. c. bewickii* (以下コハク) のつがいの家族群が、1986年度の越冬期から6年間連続して岩手県北上市の同一地点に渡来し、越冬している。昨シーズンまでの渡来状況は前3報で報告した(村瀬 1990, 1991, 1992)。本報ではそれに1992年～1993年の渡来状況と、今シーズンはじめて観察された「クロチャン」の孫にあたる3個体の飛来の経緯などについて簡単に報告する。個体同定法ならびに観察場所については、村瀬(1990)を参照されたい。

### 渡来状況

前報(村瀬 1992)に1992年10月～1993年5月の記録を加えた「クロチャン」家族群および1988年以降に北上市に渡来したアメコ、アメコとコハクとの亜種間雑種(以下アメコ×コハク)、アメコと亜種間雑種(アメコ×コハク)との交雑個体(以下アメコ×雑種)およびナキハクチョウ *Cygnus cygnus buccinator* (以下ナキハク)の渡来状況は表1にまとめた。また、上記のハクチョウの各個体の1992～1993年の越冬期の渡来日と渡去日にそれぞれの時刻と場所を加えて経時的に表2にまとめた。なお今シーズンの「クロチャン」と「カアサン」の家族の写真は図1に、「ナガレ」と「チビクロ」の家族の写真は図2に示した。

### 特記事項

#### 1. 二代目の渡来

「クロチャン」の1988年生まれの子「ナガレ」はアメコ雌の「チビクロ」と1990年からずっとペアとして行動していた。このつがいは、1992年11月3日に渡来した時には、はじめて3羽の幼鳥を連れていた。これらの幼鳥は「クロチャン」の孫にあたり、第二代目の交雑個体ということになる。その中の1羽、「コロ」は嘴峰の黄色斑がきわめて小さく、この点ではアメコの特徴をよくあらわしている(図2)。

#### 2. 増えつつある黒い嘴峰のハクチョウ

北上で越冬するアメコ、アメコ×コハク、ナキハクなど黒い嘴峰を持つハクチョウは1985～1986年のシーズンには5羽だったが、1992～1993年のシーズンは22羽になり、その

1993年12月18日受理

1. 〒024 北上市常磐台2-2-17

表1. 「クロチャン」家族群の渡来状況 (1993年5月現在).  
Table 1. Winter records of "Kuro-chan" family.

期間 愛称	1985. 10 ~1986. 5	1986. 10 ~1987. 5	1987. 10 ~1988. 5	1988. 10 ~1989. 5	1989. 10 ~1990. 5	1990. 10 ~1991. 5	1991. 10 ~1992. 5	1992. 10 ~1993. 5
1) 「クロチャン」	3/18~4/17 (30日間)	10/23~4/15 (174日間)	10/23~4/15 (175日間)	10/23~4/5 (165日間)	12/8~4/10 (122日間)	10/29~4/12 (166日間)	11/6~4/2 (149日間)	10/21~4/17 (179日間)
2) 「カアサン」		10/23~4/15 (174日間)	10/23~4/15 (175日間)	10/23~4/5 (165日間)	12/8~4/10 (122日間)	10/29~4/12 (166日間)	11/6~4/2 (149日間)	10/21~4/17 (179日間)
3) 「ブイ」			10/23~4/15 (175日間)	(行方不明)				
3) 「ヤマ」		10/23~4/15 (175日間)	12/20~4/5 (116日間)	12/13~4/10 (118日間)	12/7~4/12 (127日間)	12/1~4/3 (125日間)		(行方不明)
3) 「オジサン」			10/23~4/3 (163日間)	(死じ)				
3) 「エタ」		10/23~4/5 (165日間)	11/16~2/11 (87日間)	12/15~3/8 (84日間)	11/1 (1日間)			(行方不明)
3) 「キボッチ」		10/23~4/5 (165日間)	11/2~3/2 (120日間)	(行方不明)				
3) 「ナガレ」		10/23~4/5 (165日間)	11/2~3/2 (120日間)	12/13~4/5 (114日間)	11/28~4/2 (127日間)	11/3~4/13 (162日間)		
3) 「ゲン」			12/8~4/10 (122日間)	10/29~4/12 (166日間)	12/18~4/2 (107日間)	11/3~4/17 (166日間)		
3) 「エイチャン」			10/29~4/12 (166日間)	11/4~4/2 (151日間)	11/23~4/3 (132日間)			
3) 「マユ」			10/29~4/12 (166日間)	12/8~4/2 (117日間)	10/22~4/17 (178日間)			
3) 「ピンキー」			10/29~4/12 (166日間)	11/3~4/2 (152日間)	10/22~4/17 (178日間)			
3) 「エル」			11/6~4/2 (149日間)	(行方不明)				
3) 「キキ」			11/6~4/2 (149日間)	(行方不明)				
3) 「チャコ」			11/6~4/2 (149日間)	1/9~4/17 (99日間)				
3) 「スージー」			11/6~4/2 (149日間)	(行方不明)				
3) 「ヒラリ」			10/21~4/17 (179日間)					
3) 「ゴマチャン」			10/21~4/17 (179日間)					
3) 「ユージュ」			10/21~4/17 (179日間)					
3) 「ルイ」			10/21~4/17 (179日間)					
3) 「ダンテ」			10/21~4/17 (179日間)					

[註]

- 1) アメリカコハクチョウ
- 2) コハクチョウ
- 3) アメリカコハクチョウと  
コハクチョウの亜種間雑種
- 4) アメリカコハクチョウ×  
コハクチョウの交雑個体と  
アメリカコハクチョウとの  
つがいの子
- 5) ナキハクチョウ

その他黒色嘴峰の白鳥

期間 愛称	1988. 10 ~1989. 5	1989. 10 ~1990. 5	1990. 10 ~1991. 5	1991. 10 ~1992. 5	1992. 10 ~1993. 5
1) 「チビクロ」	1/25~4/5 (70日間)	(福島・大池)	12/13~4/5 (114日間)	11/28~4/2 (127日間)	11/3~4/13 (162日間)
3) 「アメモドキ」	3/11~3/22 (12日間)	3/23~3/24 (2日間)	3/27 (1日間)	3/27 (1日間)	3/18 (1日間)
1) 「マギー」			11/28~4/2 (127日間)	(行方不明)	
5) 「ベッター」		3/29~4/24 (26日間)	12/11~4/13 (124日間)		
3) 「イッチャン」			10/18~4/17 (182日間)		
1) 「ノンノ」			3/7~4/17 (42日間)		
3) 「ニモド」			3/7~3/9 (3日間)		
1) 「シロチャン」			3/15~3/17 (3日間)		

(つがい形成)

期間 愛称	1992. 10 ~1993. 5
4) 「コロ」	11/3~4/13 (162日間)
4) 「アイ」	11/3~4/13 (162日間)
4) 「ナオチャン」	11/3~4/13 (162日間)

表2. 飛来・飛去の状況.

Table 2. The records of arrival and departure in 1992 - 1993 season.

渡		来		備 考		渡		去	
年. 月. 日	時	愛 称・同行	場所	性	ペアー形成 (可能性)	年. 月. 日	時	愛 称・同行	
1992. 10. 18	早朝	「イッチャン」	大堤	♂		1993. 3. 9	夕方	「ニモド」	
	21	「クロチャン」	新堤	♂	「カアサン」 「クロチャン」		17	夕方	「シロチャン」
		「カアサン」		♀				18	夕方
	昼間	「ヒラリ」		♀			4. 3	夕方	「ニイチャン」
		「ゴマチャン」		♂			13	早朝	「ナガレ」
		「ユーユ」		♀			「チビクロ」		
		「ルイ」		♀?			「コロ」		
	「ダンテ」	♂?			「アイ」				
	22	「マユ」	新堤	♀	「ピンキー」 「マユ」		「ナオチャン」		
	早朝	「ピンキー」		♂			早朝	「ベッター」	
11. 3	早朝	「ゲン」	新堤	♂	「ベコチャン」(コハク♀)		17	夕方	「イッチャン」
	午前	「ナガレ」	新堤	♂	「チビクロ」 「ナガレ」		「クロチャン」		
		「チビクロ」		♀			「カアサン」		
		「コロ」	♀		「ヒラリ」				
		「アイ」	♂		「ゴマチャン」				
		「ナオチャン」	♀		「ユーユ」				
23	早朝	「ニイチャン」	新堤	♀	「バフ」(コハク♂)		「ルイ」		
12. 11	早朝	「ベッター」	赤石堤	♀	「ジロー」(オオハク♂)?		「ダンテ」		
1993. 1. 9	早朝	「チャコ」	新堤	♀			「マユ」		
	早朝	「ノンノ」	新堤	♀			「ピンキー」		
		「ニモド」	新堤	♂?	「ムジー」(コハク♀)		「ゲン」		
15	午前	「シロチャン」	北上川	♀?			「チャコ」		
18	午前	「アメコモドキ」	北上川	♂			「ノンノ」		



図1. クロチャン家族群の第6回渡来.

Fig. 1. The sixth visit of the Kuro-chan family. The mated pair of *C. c. columbianus* and *C. c. bewickii* and their juveniles, 1992 - 1993.

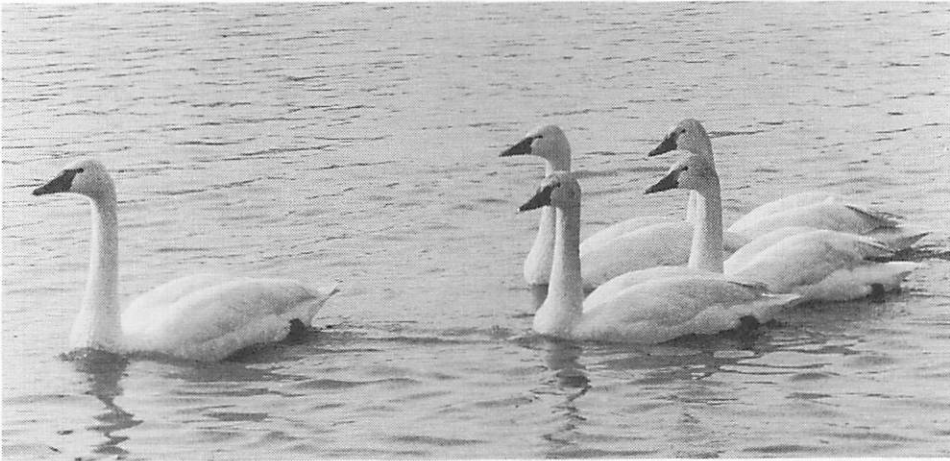


図2. ナガレが子供を連れて渡来.

Fig. 2. The first visit of Nagare family, the mated pair of a *C. c. columbianus* and *C. c. bewickii* hybrid and a *C. c. columbianus*, with their juveniles, 1992 - 1993.

数が次第に増えてきた(表3)。「クロチャン」の子供達が繁殖年令を迎えており、その子供には黒いくちばしを持ったものが生じる可能性が高いので、今後ますますその数を増し、北上で越冬する個体群にアメコの特徴を持った個体が多くなっていくことが考えられる。

表3. 北上に飛来した黒い嘴峰を持つハクチョウの数.

Table 3. The number of wintering swans with the black bill pattern in Kitakami.

	アメリカコハクチョウ <i>C. c. columbianus</i>		アメコ×コハク雑種 Hybrid between <i>C. c. columbianus</i> & <i>C. c. bewickii</i>		ナキハクチョウ <i>C. c. buccinator</i>	合計 Total
	成鳥 adult	幼鳥 juvenile	成鳥 adult	幼鳥 juvenile	成鳥 adult	
1985/86	3	2				5
1986/87	2					2
1987/88	1			2		3
1988/89	2		1	4		7
1989/90	1		5	1		7
1990/91	2		5	3		10
1991/92	3		8	4	1	16
1992/93	4		9	8	1	22

## 引用文献

- 村瀬美江. 1990. アメリカコハクチョウとコハクチョウのつがいおよび家族群の連続越冬記録. *Strix* 9: 213-217.
- 村瀬美江. 1991. アメリカコハクチョウとコハクチョウのつがいおよび家族群の連続越冬記録 — 第II報 — *Strix* 10: 274-279.
- 村瀬美江. 1992. アメリカコハクチョウとコハクチョウの家族群の連続越冬記録 — 第III報 — *Strix* 11: 245-251.

Wintering records of a mated pair of Bewick's and Whistling Swans,  
*Cygnus columbianus bewickii* and *C. c. columbianus*  
in Kitakami, Iwate. — Part IV —

Yoshie Murase<sup>1</sup>

A mated pair consisting of a female Bewick's Swan, named "Kaasan," and a male Whistling Swan, named "Kurochan", have migrated with their juveniles to Kitakami-city, Iwate Pref., every year since 1987. They visited this place with two juveniles in 1987, four in 1988, one in 1989, three in 1990, four in 1991 and five in 1992. Now, some of the juveniles have attained sexual maturity. In the 1992-1993 wintering season, one of the pair's male offspring, named Nagare, returned to Iwate accompanied by three juveniles, having mated with a Whistling Swan. The wintering Swans with black bill color patterns, such as Whistling Swans and hybrids between Bewick's and Whistling Swans, have increased in this place; from 5 in 1985 to 22 birds in 1993.

1. 2-2-17 Tokiwadai, Kitakami-shi, Iwate 024.